

第15期町田市立図書館協議会

第8回定例会議事録

日時：2014年5月22日（木） 午後3時00分～午後5時00分
場所：町田市立中央図書館 6階ホール

■出席者

（委員） 山口洋（委員長）、清水陽子（副委員長）、
市村省二、千田実、久保礼子、多田美恵子、
鈴木真佐世、中林君江、砂川とき江
（計9名）

（館長） 尾留川朗

（図書館） 海老澤幸子

（事務局） 近藤裕一（副館長）、佐久間隆司、石井健一

■欠席者 伊藤昌克

■傍聴者 なし

2014年5月22日

第15期図書館協議会 第8回定例会次第

《委員委嘱》

鈴木真佐世委員（町田の図書館活動をすすめる会）

伊藤昌克委員（町田市立小学校長会）

《議事録確認》

第7回定例会議事録

《館長報告》

1. 教育委員会 5月2日（金）

<議案審議事項>

議案第17号 町田市立図書館協議会委員の委嘱について ……資料1

2. その他

①耐震補強工事に伴う木曾山崎図書館の臨時休館について ……資料2

《協議事項》

1. 図書館評価について ……資料3

2. その他

■議事録

○山口委員長 それでは、定刻になりましたので、第15期図書館協議会第8回定例会を始めたいと思います。

○事務局 始める前に、事務局から1つご報告があります。

3月まで事務局でやっておりました田村が退職ということで、かわりに今日から石井という職員が事務局としてやらせていただきますので、よろしくお願いします。

○事務局（石井） この3月まで財務部資産税課で固定資産税の仕事をしておりました。町田市に土地、家屋をお持ちの方、5月の連休が過ぎたころに、お手元に固定資産税の納税通知書が届いたと思います。よろしくお願いします。

4月から再任用ということで中央図書館にお世話になることになりました。初めての職場なのですが、いろいろ勉強させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○山口委員長 よろしく願いいたします。

それでは、今日は最初に委員の委嘱がございます。

○尾留川館長 それでは、会議が始まる前に、2名の方に改めて委員になっていただいておりますので、ここで委嘱式をさせていただきたいと思います。

ただ、本日、伊藤委員については所用のため欠席ということで伺っておりますので、事務局から後日お渡しするというので進めたいと思います。

〔委嘱書手交〕

○山口委員長 それでは、鈴木委員をもうご存じの方もいらっしゃいますけれども、初めての方もいらっしゃると思いますので、委員の皆さんも一言ずつ自分の所属等を自己紹介という形で、あと鈴木委員もぜひやっていただければと思います。

では、私から、私は委員長をやっております山口といいます。協議会は4期、今度で5年目になります。大学の教員をしておりますが、この4月から町田の図書館活動をすすめる会の代表も兼ねるようになりましたので、ぜひいろいろとよろしくお願ひしたいと思ひます。

○清水委員 副委員長をしています清水です。よろしくお願いします。町田の図書館活動をすすめる会から出ていますけれども、学校図書館を考える会で長く活動しています。南中学校の図書指導員をおととしまで10年間やっておりました。学校図書館と図書館の連携について活動していきたいと思ひています。よろしくお願いします。

○多田委員 多田と申します。町田の図書館活動をすすめる会とまちだ語り手の会の会員です。去年の8月から協議会委員をさせていただいていますので、まだ新人ですが、よくわからないのでよろしくお願いします。

○鈴木委員 私は、柿の木文庫で、今年で柿の木文庫も30年になるのです。最初るときから主の志村さんと一緒に活動していきました。鶴川駅前の図書館ができるときに、その市民ワークショップとして最初に参加して、それからずっと5年ぐらい、できるまでのいろいろな検討委員会やら、開設委員会やら何かはずっとかかわってきて、図書館のことも少しずつ勉強させていただいて、今回、町田の図書館活動をすすめる会のメンバーにもなりまして、そちらからこちらに出させていただきました。よろしくお願いいたします。

○中林委員 中林君江です。町田のボランティアの朗読奉仕の会のメンバーで、去年の8月から協議会の委員にさせてもらって、いろいろ勉強させていただいています。目新しいことが多くて、毎回教えていただくことも多いです。どうぞよろしくお願いします。

○砂川委員 かえで文庫とまちだ語り手の会の会員です。個人的には、20年ぐらい前から鈴木さんにはお世話になっております。今度ご一緒することができてうれしく思います。いろいろまた教えてください。よろしくお願いいたします。

○市村委員 市村と申します。和光大学の図書館に勤めております。私は大学の図書館の経験は長いのですが、公立図書館については余り詳しくないものですから、いろいろ勉強させていただいております。昨年8月から委員を務めています。よろしくお願いいたします。

○千田委員 南大谷中学校の校長の千田と申します。中学校の校長会の代表で参加させていただいています。私も去年の8月からお世話になっております。よろしくお願いいたします。

○久保委員 久保といいます。町田の図書館活動をすすめる会の団体会員の野津田・雑木林の会の代表をしています。鈴木さんは今までいろいろ一緒にやっていてよく知っています。野津田・雑木林の会では、本と子どもと自然をつなぐというような感じのことを図書館とやっていきたいと思っていて、夏休みの特別企画を、もう今年が10年目ぐらいになるのですけれども、児童の人と一緒にやってみたりとか、あと、児童の理科の書架のところに小さな自然展示コーナーをやったりとか、児童の担当の方と割と密接に交流しながらいろいろやっているというところで、長く協議会委員もやっています。役に立っていませんが、よろしくお願いします。

○山口委員長 ありがとうございます。町田市の図書館協議会は年10回ございまして、それ以外にいろいろと活動が待っておりますので、ぜひ積極的にご参加いただいて、また新しく我々にも教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

次に、議事録確認になります。お手元に4月の第7回定例会議事録の最終案が出ておりますが、これについては特に訂正依頼はなかったのですね。

○事務局 特にありませんでした。

○山口委員長 ということですので、これで決定ということによろしいかということなのですが、この点、皆さんよろしいでしょうか。

では、議事録は確定ということで公開の手続をよろしくお願いいたします。

それでは、議事録確認は終わります。このところ順調に議事録の公開が進んでいますので、分量は多いですけれども、ぜひチェックをお願いします。

それでは、報告事項に入ります。

まず、今日は館長報告が2点ございます。では、館長、よろしくお願いいたします。

○尾留川館長 では、次第に従って報告させていただきます。

まず、1点目が5月2日に開催された教育委員会です。こちらについては議案審議事項が1件、先ほど鈴木委員に委嘱させていただきましたが、この件についての議案の議決ということです。資料がございますので、資料をご覧いただきたいと思います。

議案第17号 町田市立図書館協議会委員の委嘱についてでございます。提案理由の説明ですけれども、協議会委員10名のうち、異動に伴って学校教育の関係者1名及び欠員となっている社会教育の関係者1名について委嘱を行いますということで、任期は2015年7月31日までということになります。

裏面になりますが、先ほど委員委嘱のところでありました伊藤委員、それから鈴木委員にお願いするというので、こちらの議案を提出しまして、議決をいただいている状況でございます。

続きまして、2のその他になります。耐震補強工事に伴う木曽山崎図書館の臨時休館についてです。こちらにも資料があります。資料2でございますが、木曽山崎図書館につきましては、耐震補強工事のため、こちらにある期間ですけれども、休館いたします。なお、休館中も一部の業務については実施するというので考えております。

内容ですが、今のところ予定ですけれども、休館期間が9月初旬から五、六カ月ということになってきます。工事の状況、それから入札等の状況によって変更になる可能性がご

ざいますけれども、実際に9月初旬から五、六カ月ということになると、ほぼその年度はもう閉館ということになってきます。

まず、先に工事の概要についてお話しいたします。一番下の3のところですが、工事については、まず1つは屋根の改修、屋上の鉄筋コンクリートのはりや屋根の鉄骨の取り合い部を補強するという工事、それから、この建物は柱のない壁で建物全体を支持しているというか、もたせている構造ですので、その壁をつなぐ水平のひりが屋根部分にあります、そのひりの強度が耐震診断で不足しているという指摘を受けております。そのひり、屋根の水平ブレースを全て交換するということになります。工事としてはかなり大規模なものになります。

それにあわせて②の天井改修ですが、全ての天井を一旦撤去して全面的に改修する。それとともに、天井裏に空調設備がありますが、こちらも老朽化に伴って交換する。あわせて天井の照明器具についても交換するということを予定しております。当初は、屋根を一旦外さないといけないという話もあったのですが、今のところは屋根は外さずに中だけで、中だけというのは結局はりも含めてですが、工事ができる見込みがだんだん見えてきたところもありますので、図書館としては倉庫を借りて工事前に全ての資料を一時的に保管場所に移転させて、そちらに保管することで室内は資料がない状況で工事をしていく。昨年度は、さるびあについては資料をそのまま置いた状況で耐震補強工事を行いました、今回については全てを移転させるということで予定しております。

戻りまして2番ですが、実施する業務ですが、ここにあるとおり、まず1点目が予約資料の貸出、こちらについては木曾山崎センターの1階ロビーを会場として、予約資料の受け渡し等を行っていきたくと考えております。

2点目として、おはなし会です。おはなし会につきましては、木曾山崎センターの1階和室を使用して、これまで水曜日だったのですが、それを火曜日に変えて、第1火曜日、第1木曜日に実施するというので、実施回数については変更ありません。

3点目は返却資料の受け付けということで、木曾山崎センターの1階ロビーで返却資料の受け付けを行っていくことを予定しております。当初は施設の返却ポストの活用を検討したのですが、やはりどうしても足場を組むとか、その辺の関係があって立ち入りが難しくなるということと、当然のことながら安全の確保の問題も出てきましたので、コミュニティセンターの1階ロビーで行っていきこう。ただ、コミュニティセンターもそう広いスペースではありませんので、どういう形で行っていくか、できればこちらとしては予約本の

受け渡しを行っている近くに返却ポストを置いて、そのポストに入れていただくというようなことを考えているのですが、そこまで置けるかどうかは、今、木曾山崎センターと調整を行っております。だめな場合には、予約本の受け渡しを行うとともに、返却資料の返却ポストではなくて、返却ボックスを用意して、そちらに入れていただくというような形になってくるかと思えます。

それから、その他として小学校への出張ブックトーク等、七国山小学校に定例的にブックトークを行ってきております。これについては、施設サービスではありませんので、当面これまでと同じようにブックトークを行っていくということで、このブックトークについては学校側でもかなり好評ですので、こちらでも途切れることのないように行っていきたいと考えております。

木曾山崎図書館の臨時休館につきましては以上でございます。

今回、館長報告としては以上となります。

○山口委員長 ありがとうございます。報告事項は2つということですので、この内容につきましてこれから質疑してまいりたいと思いますが、1番目の教育委員会の報告については協議会委員の委嘱の件ですので、ここではよろしいかと思えます。

むしろ2番目に出てきました木曾山崎図書館の臨時休館について、ご質問、ご確認などがございましたら、委員の皆様からご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○鈴木委員 おはなし会ですけれども、今まで水曜日に行っていたのを第1火曜日と木曜日というのは、時間は、今、学校からの帰りが遅くて、水曜日でも3時にはなかなかできなくて、夏だけ3時半にするとかということですが、火曜日とか木曜日はさらに子どもたちが遅いのではないですか。その辺、何時からおはなし会をすることになりますか。

○尾留川館長 今のところ、開始する時間については変更がなくて、一応3時からの開始ということになっています。この点については、木曾山崎図書館だけではなくて、ほかの図書館でも同じような状況が出ていますので、新年度、鶴川駅前図書館は夏の時間だけ30分、懇談を持たせていただいて、情報を確認しながら試しにやってみようかということで行います。その辺の状況を見て、ほかの図書館についても対応を考えていきたい。

木曜日については変わりありませんので、小さい子向けと大きい子向けということで。

○鈴木委員 どちらかが小さい子向けなのですね。

○尾留川館長　そうです。小さい子向けは、時間帯は余り影響がないと思いますので、どうしても大きい子向けのところが30分繰り下げられれば見える可能性があるということがあるのですが、木曾山崎図書館については大きい子向けのところに幼稚園生がお話を聞きに来ていますので、逆に遅くなるとそこがまた難しくなるというジレンマを抱えています、今回はこれまでと同じ時間でやっていこうと計画しています。

○山口委員長　よろしいでしょうか。

○鈴木委員　ありがとうございます。

○山口委員長　ほかにいかがでしょうか。

では、1点私から。木曾山崎コミュニティセンターで予約資料の貸出や返却資料の受け付けをするということなのですが、実際にこの工事期間中は、ここに図書館の職員が常駐する形になるのですか。

○尾留川館長　常駐するような形で今考えております。特に予約資料の貸出ですので、ブックトラックで予約資料を用意して、ロビーに受け取りに来られた利用者の方にお渡しするというような形をとっていきたいと思っております。ここから先が端末の利用ですとか、職員が端末をうまく利用できるかというところについてかなり問題がありますので、そのあたりがクリアできないと全く情報がないままに利用者の方と対応することになってくる、そのあたりは不安が今あるのです。

○山口委員長　わかりました。

○鈴木委員　予約貸出は倉庫に入れてしまった分もできる感じですか。それとも、それはよその館にあるものを回すみたいな感じなのですか。

○尾留川館長　倉庫に入れた分については、今のところ貸出はとめようと思っております。そう長い期間ではないのですが、実はその間に今進めているICタグですとか、カラーバーコードの貼付作業を倉庫の中で行っていこうと考えていますので、そこで出納とか入出庫が発生してしまうと多分收拾がつかなくなるだろう。他館の同じタイトルの本もありますので、そちらを優先的に利用してもらおうということで、仮に予約が入った場合に、職員が図書館側でつけかえるということも含めて考えていきたいと思っております。ですから、予約については、どこの本を予約するというのではなく、このタイトルの予約ということになりますので、このあたりで調整をしていくということになってくるかと思えます。

○鈴木委員　インターネットで予約したときに、例えば倉庫に入っている本しかなかった

場合に、あるというふうに出るのですね。そうではないですか。1冊しかないときには。
○尾留川館長 現状としては、そこまでとめてというふうには考えておりません。それで予約というか、リクエストをされた場合には、場合によっては自館のものではなくて、他館、他の自治体館もしくは都立の関係を活用するという事も出てくる可能性はあります。

○鈴木委員 わかりました。

○山口委員長 木曾山崎図書館の臨時休館の件については以上でよろしいかと思います。

それでは、館長報告事項は2点ということで今回は終わります。

引き続きまして、協議事項に入ります。協議事項につきましては、この前から続いておりますが、図書館評価についての項目、また、やり方についての検討を継続しております。新しい委員もいらっしゃいますから簡単にご説明しますと、町田市の図書館では、図書館評価は今年で5年目になりますか、やっております、図書館が評価を行うと同時に、図書館協議会が外部評価組織として評価を行うというような形で進めてまいりました。

今日配付されている資料は第2期とありまして、実際に外部評価として我々がそれをやるのは来年になるのですが、今年度分からの図書館評価について評価項目を少し整理した上で、あと若干内容を変えるということで、図書館側から案が示されていて、それについて協議会で検討するという事で協議事項に含まれております。これにつきましては今回で確定というのではなくて、6月ぐらいまでは議論が継続できるかと思います。お休みになった委員もいらっしゃいますし、今日は伊藤委員もいらっしゃいませんので、できるだけこの場で意見を出し合って認識を共有して、来年以降の評価にということで考えていきたいと思っております。

そういうことですので、図書館評価の内容についてまた検討をしたいと思うのですが、今回配付されました資料3は内容が少し前のものと変わっているのでしょうか。では、その説明をお願いしますでしょうか。

○海老澤担当係長 図書館評価を担当しております海老澤です。よろしくお願いたします。

今日出させていただきました資料は、前々回に1度調査項目一覧の案ということで出させていただきましたのですけれども、それをこの場でいろいろ議論いただいたので、活動指標にこのようなものを加えさせていただきますという中身も加えた形で一覧表にしてありま

す。できれば第2期、今年度からの図書館評価の項目は、このような項目でいきたいということが1点。

一番最後、資料3の4ページ目になるかと思うのですが、個別の業務についてそれぞれシートをつくるのですが、そのシートのイメージという形で、このように記録をとっていく予定ですというので資料をお出ししております。

項目一覧表の一番上が1. 利用者情報管理ということで、業務が利用者登録、活動指標が有効登録者数で、有効登録者数も全体の登録者数と在住のみの登録者数と両方とります。市民の登録率も、登録している全体の登録率と町田市在住のみの登録率を両方出しますと一覧表に載っているのですが、それを個別のシートに落としますと、このような表というか、形式を今のところ考えております。

第2期が今年度2014年度から始まりますけれども、おおむね5年計画でということで、数値の経年変化がわかるような表を入れてあります。

それから、利用者登録は、簡単にこのような業務内容で、このようなことをやっていますという説明書きを次の枠に入れて、その下に通常の業務内容とは別に、特記すべき取組を行った場合は各年度ごとに記入を行って、表の右側に外部評価者のコメントという欄をつけさせていただいておりますが、例えば2014年度、数値としてはこうなりましたという図書館での事業の結果が出ましたら、図書館協議会で、この数値は町田市の図書館としてどうかというようなことを議論していただいて、コメントをいただければという形を考えております。

今までの第1期は、目標値を設定して、それが到達したか、到達しないみたいな形でA、B、Cをつける形をとっていたのですが、第2期は、目標値は表向きは設定しないで、実際に図書館が活動してどうでしたかという実績値のみを出させていただくことにしております。ですので、AとかBとかCという評価はつけない予定にしております。数値のみで評価するというのは難しいかとは思いますが、外部評価としては、この数値はこう思うとか、もっとこのようにしたらいいのではないかというご意見があれば、それをいただきたいと思っております。

事業として、もうちょっとこのようにしたらいいのではないかとといったところは、本来、この図書館評価が図書館事業計画から項目をとっておりますので、施策的なところは図書館事業計画に反映して、そちらで工夫して実施をするなら実施するといった形をとっていきたいと思いますので、評価としては、このような形をとりたいと考えております。

よろしく申し上げます。

○山口委員長 ありがとうございます。前回に比べると活動指標は少し動きがあるのかな。あと、一番大きいのは、今回の資料では4ページ目、この部分は何という名称で呼ばれていますか。

○海老澤担当係長 今までだと事業評価シートですか。

○山口委員長 形が似ているので、一応そういう認識でよろしいですか。

○海老澤担当係長 はい。

○山口委員長 この中に評価が書き込まれ、かつ外部評価者、つまり我々の評価も今度はA、B、Cではなくてコメントという形で書き込まれる。あとは、このシートを拝見する限りでは、今までの第1期の図書館評価は毎年毎年シートが変わるという感じでしたけれども、今度は5年分がそこに積算されて記録されていくという形になるということですね。そういう意味では大分大きく変わると捉えていいのかと思います。

前半の今年度も含めた指標の部分の検討、あとは事業シートの部分について少し検討をしていきたいと思うのですが、まず、評価項目、そして活動指標のところ。前からいろいろ気がついたところについては意見を出している訳ですが、この点について、今までの議論に参加されていない委員もいらっしゃいますので、改めてこの場でお気づきのこと、ご質問、確認などがございましたらご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○鈴木委員 この評価シートは1つ1つの項目についてできるということですか。今は登録者数の問題が載っていますけれども、表に1からずっとありますね。その番号ごとに、下半分のように評価をするということですか。

○海老澤担当係長 項目一覧表の真ん中に業務という欄があるかと思うのですが、基本的には業務ごとに1シートはできると考えていただければいいと思います。ただ、業務の中でもシートが1枚ですと記入しにくい項目も中にありますので、そうすると、活動指標ごとに分かれる場合もあります。業務ごとに1シートは最低できます。

○鈴木委員 去年のものを送っていただいたのですが、前のものと全然違う感じになる訳ですね。

○山口委員長 前の評価と大きく違う点は、今回の活動指標は、ご覧になればわかるように全部数値で出てくるものです。前は数値だけではなくて、ある程度幅のある評価項目もあった訳ですが、それについて特に取り組んだことは、事業評価シートの特記すべ

き取組に出るという理解でよろしいのですね。

○海老澤担当係長 はい。

○鈴木委員 1つ1つが評価の数字になるのですか。これは人数だから数字になるのはわかるのですが、例えば資料選定といっても、それが何点といったらおかしいですけども、どういう感じになるかが、前のはA、B、Cということでしたけれども。

○山口委員長 確かに、A、B、Cの3段階評価というのかなり限界がありまして、3段階で表現できるのかという疑問もありました。あと、自治体というか、図書館によってやはり違うのですね。たしか横浜市は5段階とか、いろいろ指標を変えているところもあって、実は統一した基準はありません。なので、試行錯誤しているということだろうと思うのです。

その点で言うと、確かにA、B、Cというのは一見するとわかりやすいのですけれども、限りなくCに近いBなのか、限りなくAに近いBなのかというところで、我々もA、B、Cの3段階評価プラスコメントで何とか表現をしてきていたという経緯はあるのです。今回はそれがなくて、逆に活動指標で数値が出て、図書館側で数値を実績値として出して、かつ特記すべき取組が書き出されたものに対して、外部評価者はどのような評価を出すのかというのが1点。

○鈴木委員 数値ということは、つまり100点満点の数値ということですか。

○山口委員長 そうではなくて、例えば表側の項目で言うと、3番の選定で資料選定の場合だと、図書館資料所蔵冊数というのが実績値になる訳です。

○鈴木委員 活動指標の全てが何個とか何冊とか何回という数値になる訳ですね。その目標が何百回とか何百冊というのが出て、それに対して実際に何冊だったか、全ての項目についてある訳ですか。

○山口委員長 いや、今回、目標値はないのですね。だから、私の認識だと、例えば図書館で統計などをとっているけれども、その数値のような形で実績値のところに数値が出てくるということですかね。

○鈴木委員 そうすると、目標がないということですか。今までののは、こうあったらいい、こうしたいという目標が全部あって、だけれども、これは全て。

○山口委員長 そのところは館長から。

○尾留川館長 トータルでお答えさせていただきます。

第1期の評価のときには、一定の目標を定めて、それに対して目標に基づいて中期的な

計画を立て、単年度の取り組みを決め、そのとおりにできたか、できなかったかをA、B、Cで評価した。ですから、本来、Aは予定どおりなのです。Bは予定どおりだが一定の課題があった、Cは予定どおりできなかったということだったのですが、5年間やっているうちに、なぜか子どもの学校の評価みたいな感じになっていて、Aはよくできた、Bが予定どおり、Cは問題があったみたいになってしまった。これは教育委員会の評価・点検も同じですが、図書館側と協議会の認識がずれてしまったということがまず1つあります。

それと、目標の表現が曖昧な上に、目標を達成するために必要な資源が何であるかというところは全く明らかにせずに評価ということだけを取り出して行っている。ですから、例えば蔵書数1つとってみても、新たに購入冊数を急激にふやそうという目標を立てたとすれば、当然それなりの購入費から施設から用意しなければできない訳ですけれども、そういったことはあくまで気持ちの上での目標として持ってしまったというのが第1期の問題としてあった。

もう1点大きいのは、図書館が進めている方向と外部評価者である図書館協議会が評価もしくは事業に対してコメントすること自体は異なっていて普通なのですが、それを無理に合わせようとしたということの弊害がかなり大きかった。

それらを全体で整理すると、事業の評価については毎年度の実績をどういった指標で見ているのかということを決めて、例えばこの利用者登録であれば、有効登録者数であり、市民のうちの何%の方が登録されているのかという登録率も見ていきたいと思いますということになります。それを経年的な推移、毎年毎年の推移を見ていって、例えば登録者数については一定程度横ばいに変化がなければいいと見るのか、もっとふやしていく必要があると見るのかは評価者によって異なってくるだろう。

ですから、図書館としては、登録者数の増加そのものではなくて、実質的には貸出点数であり、多くの方が本を借りて読んでいただいているという状況が捉えられるのが一番望ましいとすれば、有効登録者数が増えていくことだけが望ましい状況ではないとすると、取り組みもそのあたりで変わってくる部分が出てきます。

ただ、一方で図書館協議会は外部評価者ですから、外部評価者としての立場や価値観というのを持って、これに対して評価していただくということになりますので、やはりここの中の議論として、この程度はふやしていってもらった方がいい。その際に、当然これだけではなくて必要な資料として、例えば過去のほかの自治体の実績はどうなっているのかと

いったところも勘案していただきながら、やはりこれぐらいのレベルまでは持っていったらいいということがあれば、それをコメントとして書いていただく。その指摘をこちらが見て行って、翌年度の取り組みにどういう形で反映するのかというのは、特記すべき取組を次の年に反映してくるというようなやりとりで進めていったらどうか。

ですから、目標値を達成したら100点だというような、テストを受けてそれに対して得点を見るということではなくて、まさに毎日毎日積み上げている業務がどういう状況になっていて、それについてどういうふうな評価や解釈をしていくのか。そこの対話によって、いい業務にしていこうということを目的にしていこうと変えています。

ただ、もう1点補足する部分では、事業で毎年やるのはこれなのですけれども、2013年に事業計画を策定しまして、そこには施策、活動した上位の意図、目的があります。そちらは、ある意味で言うと目標的なものになっていて、この点については5カ年の計画の中間年と最終年でしっかり調査をして評価していく。それについても、この協議会に出させてもらうということがあります。そちらについては、例えばしっかりとしたアンケート調査であったり、一定の情報の収集というのが日常的に業務で発生するものだけではなくて、利用者の声をもっと聞いていくことも含めて行っていきますので、その段階である意味で言うと目標の達成度ははかっているかと考えております。

ただ、毎年毎年目標の達成度をはかるということになると、やはり評価のための作業ということになってしまうので、このあたりについては施策の評価と事業の評価をしっかりと分けて、日常的な活動は予定している内容をきっちりとこなしているのか、もしくはしっかりと仕事をしているのかどうかというのを結果の実績で見えていこうというスタンスで進めようというのが今回の提案になります。

○山口委員長 ありがとうございます。今、館長から改めて説明をいただきましたけれども、今日提示していただいた事業評価シートを見ると、イメージとしてかなりはっきりわかってくるかと思えます。要するに、実績値を出していただいて、それを毎年協議会では外部評価という形で見ていく。今まで図書館側でまず最初の評価をして、それに対して外部評価という形になっていましたけれども、今度、図書館側は特に評価をそこでは下さないで報告する。それに対して、むしろ我々が外部者の立場で評価というか、それについてコメントをつけていく、または提案をしていくというような形でいいのかと思うのですね。そうすると、外部評価者は意外ときちんとした評価というか、基準を持たなければいけない訳でありますから、その点は我々もかなり締めてかからないといけないのかと思

ます。

もう1つは、今、館長からご説明のあった図書館事業計画の中で3年目ということになりますか。そこで実際に項目等についての詳しい検討がということですので、毎年の外部評価に関しては、実績についての評価を下しつつ、それを3年間継続した結果で、例えばもっと大きな問題または事業計画にかかわるような点での提案も、その場でできるということかと思えます。

だから、トータルで言うと、図書館の現場の負担が図書館評価でかなり高まっていたと思うのですが、それが少しは軽減されるのかなと。協議会の方は毎年ありますけれども、毎年の数値の推移を見ながら、むしろ3年に1回という形で大きな評価をしていくということになるのかと思えます。私の認識はそうなのですが、どうでしょうか。

○久保委員 私の感想ですけれども、業務評価シートのところで数値がこうやって2014年から2018年まで具体的に並ぶと、とてもわかりやすい。仕事の内容とか現実には、こうやって言葉ではなくて数値が並ぶと、とてもわかりやすいというのがあって、それはいいと思うのですが、1年ごとのこと言ったら、数値だけで報告されても、今、館長が説明されたように、日常的な業務とか利用者の声は、担当の方が言葉を添えてくれないとわからないということがあって、この報告を受けるとしたら、現場の担当の方が実際に補足してくださらないと、例えば私などは何をどう答えていいのかがとてもわかりにくいということを感じます。

だから、こうやって数値が長期的に並ぶと、とてもいい面もあるし、1年ごとのこと言ったら、もう少し詳しく現場の方とやりとりしないと、委員としてはコメントもなかなか言えないということがあるかと思えます。

○山口委員長 今の久保委員のご発言ですけれども、確かに数値が並ぶと経年変化が見えやすい分、やはり今までコメントの中である程度現場の説明が入っていたところもありますから、その部分をどう補うかということかとは思っています。実際に外部評価を始めてみると、またいろいろと問題が出るのかと思うのですが、この数値を出していく上での基礎資料といいますか、また特記すべき取組という項目の記入をする前の基礎資料を今までの評価と同じように評価依頼の際に全部つけていただいで、それで我々が判断をしていくということである程度補っていくか。

もう1つは、場合によっては担当部署にヒアリングをお願いするということだとどうですか。久保委員、いかがでしょうか。

○久保委員　そうですね。いかがでしょうか。何か問題が出てきたら少しずつということ
で、やってみないとわからないのですけれども、数値だけいただいても、今、山口委員長
が言ったとおりで私もいいかと思うのです。

○尾留川館長　先ほどもご説明しましたけれども、この指標だけということではなくて、
副次的なこれまでの情報は当然お出ししていくということになります。恐らくここで議論
されるのは、ポイントは例えば資料閲覧貸出の利用者登録という業務の価値は、どのよう
に捉えるのだろうかということだと思っております。久保委員が今おっしゃられたことも、そ
この部分にかかわってくるだろう。目標とか達成した、しないではなくて、ここの価値は
どうやって見ていくのかということを実は図書館側が誘導するのではなくて、外部評価者
としての協議会での議論になってくるかと思っています。

ですから、そのための素材や情報というのは、もちろんこちらからお出ししていきます
けれども、例えば有効登録者数がこういう状況になっているということの価値は何なのか
ということの評価者がみずから定めて評価していくということになってきますので、その
あたりの整理はどうしても必要になってくるのではないかと。これまでの評価の中でも、実
は図書館協議会の中の議論は、そのところが一番中心の議論になっていると私の方でも
捉えているのです。

ですから、その議論については、やはり引き続き必要ですし、そこがなくなってしまう
と外部評価の意味もなくなってしまいます。ですから、先ほど言ったように、資料はこち
らでお出ししますが、図書館側で考えている価値が必要なのではなくて、外部評価者とし
てそれぞれの業務についてどういう価値を求めるのかということが一番重要になってくる
のではないかと考えております。

○山口委員長　ありがとうございます。今、館長からご説明いただきましたけれども、特
に数値をどう見るかというときに、ただ出た数値だけではわからないですが、我々はそれ
を何かと比較しなければ、その数値の捉え方が曖昧になりますので、そうすると、これも
寄って立つべき目標値がないとなれば、むしろ例えば全国的な同規模のレベルの図書館で
それはどうなのか、日図協が出してくる統計なども参考になるかとは思っております。あと
は、例えばここでは2014年から始まりますけれども、町田市の過去のデータに対してプラ
スか、マイナスかというような問題なども、結果としては我々の方で判断をしていく可能
性が出てくるだろうと思っております。

私は、図書館評価というのは業務評価も大切ですが、最終的には図書館のサービ

スにどうつながるか、サービスパフォーマンスがどのくらいできているのかという点が重要かとは思いますが、評価をするための協議会側の物差しを少しはっきりしていかないと、いきなり資料を渡されて、はい、やりなさいといってすぐできる仕事ではないなというのが私の今受けた印象です。

これ自体のタイムスケジュールでいきますと、実際に評価が始まるのは来年度の夏ぐらいという予定になるのでしょうか。

○尾留川館長 今のところ予定としては、今年と同じようなスケジュールで来年の7月ぐらいにお願いして、検討していただくという形になると思います。

○鈴木委員 評価項目も、ここに載っているのはほとんど数値化できるものだけになって、前のだと、リクエストサービスだとか職員の人材の育成というのはなかなか数値にはならないものなので、そういうものはここからは省かれているというか、チェックする項目が変わってきているというか、チェックの仕方というか、その辺は意図的に数値化できるものを選んだという感じなのではないでしょうか。

○尾留川館長 先ほどお話ししましたが、例えば人材育成1つとってみたときに、事業評価ができるかということなのです。去年に比べて今年は成長していますということがどうやってわかるのか。それは事業の評価ではなく、先ほどお話ししたように施策の評価。例えばサービス水準もしくはサービスに対する満足度がどのように推移してきたのかということや、それを改めて調査することによって、それが人材育成の中の一定のサービスの提供という部分について、把握についての水準が上がったということが類推できるだろうということになってくる。

これまでの評価は、ある意味で言うと、私から言うのもあれなのですが、かなり乱暴な評価で、定性的な部分については悪い意味で言うと作文になってしまっているということもやはり出てきている。事業評価については、指標は定量化、数字にあらわせるものだけなのかということなのですが、何しろ基本は数字にあらわせるもの、事業の日常的な活動が数字としてあらわされて、それが毎年の経年の変化として見られるということにしています。

ただ、先ほどの例えばリクエストの問題であったり、そのあたりのところについては、1ページ目の資料閲覧貸出の予約資料貸出返却のところにあるように、例えば予約の実現率みたいな形で、リクエストや予約を受けて、それが実現できなかったものがどのぐらいあるのかということ。例えば受付件数が何件で、実現率がこれぐらいであれば、これだけ

の件数は実現できなかったのだろう。とすると、どういう理由で実現できなかったのかということは当然次の問いとして出てくる。そういったところを確認しながら、では、外部評価として、こういった改善はしていく必要があるのではないかという指摘も出てくるかと思しますので、数字を見た瞬間に、数字だけで価値が決まるということではなくて、数字を入りに評価の価値をつくり出していくと考えていただければと思います。

○鈴木委員 わかりました。いろいろ済みません。

○多田委員 ちょっと乱暴な言い方なのかもしれませんが、以前の評価表に比べて、今回の表を見ると全部数字でということなのですが、有効登録者数と登録率とか、こういった利用者登録者数に関してというだけでしたら、この数字でわかりやすいかと思うのです。今のリクエストの受付件数、予約実現率というのも、数字であらわすとわかりやすいかと思うのですけれども、全体的に見ると印象として、全部数字であらわすということが図書館として前のものに比べると、数字だけ出せばいいと簡素化しているように全体の印象としては思えてしまいます。

また同じことを言うてしまうのですけれども、利用者登録率とかリクエストに関しては数字で出してわかりやすいと思うのですけれども、その他の部分に関して、子ども向け普及ですとか、そういったところに数字で出してというところちょっと違和感を覚えます。印象としては、図書館側が全部数字で出すということは、数字だけ出してくるということをするればいいのか、前のことと比較すると数字だけ出すのは簡素化された作業になっているのではないかという印象を受けました。逆に評価については、数字に関しての特記すべき取組のコメントとかがすごく難しい。我々としては、数字を見ての評価が前のものに比べるとずっと難しくなっているような気がするのです。

○尾留川館長 単純化されたように見られてしまうのは、先ほどお話ししたように、施策評価部分を除いてしまっているからですね。これまでの評価は、言い方は悪いかもしれませんが、ある意味で言うと玉石混交、何でもかんでも突っ込んでしまった評価。ですから、本来、毎年毎年評価できないようなものでも、気持ちの上で評価してしまっている。ですから、事実に基づいた評価であるかどうか、それはわからないものも評価項目の中に入っています。そういった部分については、より客観的な情報を収集するしかないだろう。

定量化するというのは、あくまでこれは事業の評価ですので、事業は日常的な活動です。その活動の質を問うのは、先ほど言った施策側で質を問うことになる。活動の量的な

部分、全く質は無視するという事ではないのですけれども、量的な部分を中心に日常的な活動が果たしてしっかりとできているのかということで評価するのがこちらの評価と考えています。

ですから、逆に第1期の評価で、図書館と図書館協議会でかなり議論になったのは、図書館側の表現に対して、それが違うのではないかという、ある意味で言うとスタンスの違いや、そういったところでの議論の応酬になってしまっていた部分もあって、何が求めるべき姿なのかということについては、評価では導き出せていないというような状況になっていると思います。

ですから、その辺の求めるべき姿というのは、やはり施策の評価のところ、先ほどの利用普及の中の子ども向け普及の話もそうですけれども、子ども向け普及は、どういう状態になればいいのか、あるべき姿は何なのかというのは、やはり施策としてのあるべき姿になってきますから、そちらで議論をしていくことになるのかと思います。

それを毎年毎年、結局は何らかの実績をもとに評価していくことになりますので、その実績がつけられた作文だけであったとすれば、果たしてそれが評価と言えるかどうかということについてもやはり疑問がありましたので、そのあたりを分けさせていただいた。ですから、ここだけ見ると、まさにご指摘のとおり、定量化したものだけ集めたのではないかと見られてしまうことも確かにあるのです。

ただ、これまで扱っていない実績量も意識して、そのあたりのことについては一定の質も取り込んだ上で指標にしていくということもありますので、単純に集めやすいものだけ集めたということではないということです。

○久保委員 私は長くこの委員をさせていただいているのですけれども、ここ数年、事業評価のことで本当に時間をとられてとても大変だったのです。というのは、文章でということになると、これだけの委員がいて、グループ分けしていろいろコメントなどを考えるのですけれども、それをすり合わせるのに、作文という次元でさえすり合わせをするのにとても時間がかかってというようなことがあって、事業評価をする前というのは、今年度はこのことについて徹底的にみんなですべて普通に意見を出し合って話し合うとか、そういうことができないぐらい事業評価に時間をとられてきて、かつ図書館の現場の担当の人とも言葉の次元で、現場の方が日常的に考えながらやっていることと、ここでこだわる質のものとは違ったり、だから、本当にそこら辺のすり合わせでとても時間がとられていたということがあると思うのです。

だから、数字だけでというふうに思っていないと館長もおっしゃっていて、特記すべき取組の中でどういうことが出てくるかはよくわからないのですけれども、そういうやりとりの中で、また、図書館側、それも担当者の方とも、このことについては今年度徹底的に話そうとか、そういう余裕も出てくるかもしれないし、何回か事業評価を一生懸命やってきて、ここで同じ質でまたするよりも、これは1つ試みとして貴重かなと私は長くやってきていて思います。

○山口委員長 ありがとうございます。いろいろご意見をいただいておりますが、先ほどから出てきている単年度でやる事業評価シートというのは、要するに図書館事業の評価ということになりますね。だから、5年計画ですから3年目に1回やって、次はまた最終年度でしょうか、そちらは施策についてということになる。

そうすると、これは私の捉え方なのですが、図書館事業評価と図書館施策評価という2段階構えで、毎年は今、久保委員が言ったように数値で積み重ねていく。そこから問題が出たときには、評価の中には織り込めないけれども、例えば協議会の場でそれをテーマにしていくということは可能になるし、そもそも施策の方で何か再検討が必要ではないかというときには、3年目の図書館施策評価というところでそれを表現していくということになるのかと思うのです。ただ、そうしますと、多分3年目の図書館事業評価と図書館施策評価、2016年度というのはかなり恐ろしいことにダブルで来るのかなというのが1点。

あと、最初に評価項目一覧をご提示いただいたときに、やはりこれは公開をしていく、つまり市民に提示をして、図書館の活動をわかりやすくという目的があるのだとお伺いしたかと思うのですが、数値だけを並べたときに、数値の見方ができる人とできない人がいる訳で、普通はわからないと思うのです。だから、それを出して、結局、利用者にとどのくらい理解が得られるのかという不安が私はちょっとございます。その点については何か図書館側のお考えはございますでしょうか。

○尾留川館長 評価項目のところ、特に数値のところだけ見ると、先ほどからお話ししているとおり、読み手がどう解釈するかということになってしまうので、一般の市民が見ていったときには、それを見ただけではわからない。ただ、傾向ですとか、そういったところは意識して見ていただければ、一番典型的なのは総貸出冊数ですとか、もしくは市民1人当たりの貸出冊数といったところを見ていただくと、例えば毎年毎年少しずつ減ってきているような状況があるとか、このところ、鶴川駅前だとか、今後、忠生もできますけれども、それができたとしても、トータルではさほど大きな貸出冊数の増加にはなってい

ないだとか、そのようなことは読み取れると思うのですね。

ただ、それを一定程度補足するかどうかというところが一番ポイントになってくるかと思うのです。例えば先ほどの外部評価の観点から見ると、そういった状況を見たときに、コメントとしてどのようにコメントされるのかということがあって、図書館としては、減少していますという報告を書いても意味がないので、減少していることに対して今年度はこういった取り組みを行っていきましました。特記すべき事項なので、こういった取り組みを行いましたみたいな話を書いていった方がいいかなというふうには今は想定しています。

ただ、委員長のお話のとおり、それを見て一般の市民の方がどこまで理解されるか。ある意味では、数字そのものの解釈は幾らでもできますので、そのあたりの解釈をこちらも限定的にしてしまうのかどうかということもあって、余り言葉を入れない方がいいかなというのも一方で感じています。

ですから、実はそれぞれの立場から書いていくことで異なる内容で、ある意味で矛盾する主張であったとしても、それを利用者が読んだときに、もしくは市民が読んだときに、かなり微妙なところではありますけれども、自分としてはどう考えるのかということを考えていただくのが一番理想的だろうと。

○山口委員長 今、数値をどう見るかという問題がメインになっているのですが、ほかの委員の方はいかがでしょうか、ご意見がございましたら。

例えば、それぞれの事業項目で各委員の専門とかかわるところがあるかと思うのですが、3 ページ目の障がい者向け普及というところでは、活動指標に講座の実施回数や受講者数というのが1つ出ていますけれども、このあたりなどは中林委員、いかがでしょうか。

○中林委員 障がい者サービスのところですか。

○山口委員長 3 ページ目です。

○中林委員 講座実施回数ですか。

○山口委員長 あと、2 ページ目の障がい者サービスもそうですね。失礼いたしました。

○中林委員 私も先ほどからいろいろ伺っていて、1つ1つ納得、そうだなと思って迷うのですけれども、数値で出せるものというのは、もちろんある程度数値で出せば、一市民として見ていると、ああ、減っているのだとか、増えているのだとか、どうしてだろうと考えますね。だから、数値で出せるものは数値で出していただくのがいいと思うのですけれども、実際に去年事業評価してみて、さっきから館長がおっしゃっているように、その

数値に合わせて外部の評価委員は出していったのですね。それであれこれ四苦八苦して、こんなに四苦八苦して数値をいろいろあげつらって、それはどういう意味を持つのか、図書館が前に進んでいくために、どういう価値があるのかというのは再々疑問に思ったことなのです。

今度の最後の4ページ目ですけれども、特記すべき取組というのがありますでしょう。だから、事業評価は本当に短期間で出すことになって、いやはや大変だと思ったのですけれども、その後こうやってきて、図書館の館員の方たちが説明してくださったりという話を聞いて、初めて具体的にこの図書館がいかにか本当にサービスに心を傾けておられるのかということがありありとわかってきて、図書館員の姿が見えてきた。でも、この間出された事業評価だけでは、非常に困難な嘱託職員の状況の中で、図書館員の方がどれほど頑張っているのかということが見えにくいのが一市民としてはとても残念です。

私などは図書館からいつも本を借りているのですけれども、実際に図書館の内情がどうなっているのかということは全く知らなかったのですね。そういうものを知って初めて図書館を利用する市民としても、やはり図書館の人たちの熱い思いが伝わってくれば、かかわり方が変わってくるような気がするのです。

私は、今までカウンターのところの職員の方に接していただいていて、町田市の図書館の職員の方の献身的な姿勢というのはいつも打たれて、恐らく私の友人たちもたくさん本を借りていますからそうだと思うのです。それがわかるのは、「知恵の樹」にいろいろ書いてあるのを見せていただいて、これは評価からは外れるのですけれども、嘱託職員の方が組合を結成したというのが「知恵の樹」に出ていましたね。あれを見て実は私自身は本当に救われる思いがして、嘱託職員で限られていて、給料も少ない中で献身的に働いている。その上に市民がどっかりとのっかっていていいものだろうかという気があるのです。

でも、具体的にそうやってみんなでかかわり合って、職員の条件も改善していくというのを知りまして、それは最近で一番打たれたことです。それで初めて、図書館の職員の方は本当に一生懸命やっというのだからと一市民として感じます。それは具体的にそういうことがわかって初めてわかることですから、やはり数値だけでは理解しにくいので、特記すべき取組というのが書かれてあると、外部評価の側のコメントもとてもしやすくなる。

だから、両面で、数値で出せるものは、冊数が増えたとか減ったとか、それもなぜ増えたのだ、減ったのだと簡単には結論は出せないと思うのですけれども、数値の上で流れを

知るということは市民としては関心があります。ですけれども、本当は私、中林という市民としての個人では、図書館の中の方々が実際にどのように悪戦苦闘してやっておられるのか。例えばリクエストの問題1つ取り上げても、リクエストを出しますね。リクエストを出した場合には、全部それを吸い上げるのか、それとも図書館の職員の方が、このリクエストはほかの人も要求するだろうから取り上げようとか、そのように検討されるのか、その辺もよくわかりません。

私が今まで出したリクエストは、大体皆さんが望んでいたことみたいに通していただいていたのですけれども、本によっては、それも不可能な場合もあるのかなと思ったり、こちらがコメントするにしても、こういうことで取り組んだということが出てくると、生身の人間としてすごくわかりやすい。できれば、そういうことを知りたいのですね。

○山口委員長 ありがとうございます。特にシートの特記する取組などのコメントで書くところがすごく重要になってくるのかと思うので、そこをどう充実させるかというのが課題になっていくかとは思っています。

あと、実際に恐らく大学図書館の方で評価もされているかと思うのですが、市村委員、いかがでしょうか。

○市村委員 大学図書館の評価というのは大分勝手が違うものですから、むしろ大学全体の活動の評価の中で図書館も1つの章を割いてという形でやられていますので、全くシステムが違ってきますので、その話をすると大分時間がかかるので割愛します。

私が素朴な疑問で思ったのは、今までの評価が玉石混交で、今度は施策の評価と事業の評価を分けるのだと。むしろ事業の評価では、評価する側がそれぞれの業務をどう見るかという価値をつくり出していくのだというようなご説明だったと思うのですけれども、具体的に外部評価者のコメントで一体どういうことを書いたらいいのだろうかというのが正直もう1つぴんとこないのですね。

例えば特記すべき取組で、先ほど何々が減少していることについて、こういう取り組みを行いましたと。では、それについて評価者はどういうコメントをしたらいいのだろうか。いろいろな裏づけの資料を見て、確かにそういう取り組みが行われたと認めますというふうにするのか、資料ではそれが認められませんでしたと書くのか、具体的に我々がどういうコメントをするのかというイメージがつかめるといいかと思ったのです。

○山口委員長 ありがとうございます。実は私も先ほどから伺っていて、実際に外部評価をやる側として、どういう点を見ていくのかというのはいろいろと頭の中で考えておりま

して、確かに協議会としての意見を入れることも今度はかなり幅があるのです。ただ、一方、数値が出されてくると、数値をどう解釈するかという問題があるので、例えば全国平均を見るのか、それとも同規模の図書館、同規模の人口の自治体と比較するのかですね。そうすると、それはそれでかなり協議会の負担も大きくなるということはあるとは思っていますね。恐らく今までのような7月に依頼を受けて、秋までに固めていくというタイムスケジュールで終わるのかなと。そうではなくて、日常的にずっとチェックしていないと、数値を解釈するための基礎データは集まらないのかなというようなことも今考えたりはしております。

だから、外部評価者のコメントをどうするかというのは、多分来年一番問題になる訳ですけれども、そこのところは実際にどうできるか、いろいろなシミュレーションをしてみないとわからないかなと。協議会のこの時間の中で、その数値を実際に集めてきてシミュレーションをするというのは不可能です。まだ来月まで議論はできるので、私なりに考えてみたいとは思っています。ただ、特記すべき取組というところでいろいろと活動が書き込まれるということで、それとどう合わせるかというイメージは委員それぞれイメージを持っていただかないと、我々は多分外部評価に入れなくなる可能性はあるだろうと思います。

○久保委員 今、委員長が言った外部評価者としての高いレベルで資料を調達できるのは、この中ではとても限られた方、山口さんとか、そういう方だと思うのです。この図書館協議会の委員の中で、本当にいろいろな人がいる訳で、出てきたものに対して率直に、例えば福祉の方でやっている方とか、子どもの関係でやっている人とか、大学の先生とかいろいろなメンバーがここにいる訳ですし、その人たちが出てきたものに対して率直に意見を言って、それを最終的には外部評価のまとめをする訳です。

というふうに、実際に余り無理せずに、それぞれの発言のいろいろなものが出てくるということが次のステップとして私はおもしろいかなと思う訳です。なので、しっかりとしたデータを数値に対して出せるというのは、山口さんとか限られた方しかできない。それぞれができることでやったら、私はおもしろいと思うのです。

○山口委員長 ありがとうございます。

○多田委員 今、久保委員がおっしゃったことはとてもいいと思うのですけれども、最初に山口委員長が言われたように、一般市民の方がこの数字を見て意味がわかるのかという部分において、やはり比較すべきものがないと、町田市だけのこの数字を見て普通に図書

館を利用している人が、ええ、この数字なんだ、これがどういう意味なのかなということになってしまうと思うので、比較するものをここに入れてくれると、例えば町田市の人口と同等で……。

○鈴木委員 でも、どこを使うか難しいですね。

○多田委員 そうなのですけれども、比較対照がないと、数字だけで捉えて、普通に私たちはというのはおかしいのですけれども、登録率とか登録者数で、ああ、すごいねとか、いいねとか言えるけれども、普通の人がこれだけ登録していたから何の意味があるのかとなくなってしまい余り意味がないと思うので、この人口で、これだけの登録者数というのは町田市はすごいねと言ってもらえると、そのぐらいの比較するものが必要なのではないかな。

○久保委員 図書館側としても、それは頭にあると思うのです。

○尾留川館長 具体的な事例として利用者登録でお話しさせていただくと、登録率とか登録者数が出ているので、特記すべき取組のところには、例えば新1年生に対して図書館1年生としてカードの取り組みをして、新規登録の取り組みを行ったということであったり、学校での図書館見学の際に利用者登録についての取り組みも並行して行っているということが書かれていく。そのときに、例えばですけれども、どこを観点に評価するかということがまず出てくると思うのですね。

書かれている内容について、ある意味でコメントに対して評価するということ、例えば登録者数をふやしていくことが漠然としてその方向性でいいだろうということであったとすれば、そういった取り組みの強化をもっと行うべきだという外部評価のコメントにするのか、対象となる層が小学生や新入学生だけに限定的に取り組みされているので、利用が少ないというか、登録が少ない中高学生とかYAのところ、その上の大学生も含めて、そういった部分の取り組みについて工夫すべきではないかということもポイントとして出てくる。あとは今議論されている同規模他市と比較して登録率が何ポイント低い状況にある。ここの部分については、やはり取り組みを強化すべきだということが出てくる。

多分3種類どれでも構わないと私は思っています。特に最後のポイントは、他市と比較してどうだということだけでコメントするのかということも議論になるのではないかな。町田市の状況がどうなのか、それこそ図書館協議会として登録者数はどの程度が適正なのか、もしくはどのような登録のされ方が求めるべき登録のあり方なのかというのを1つテーマとして議論していただいたり、その際にこちらからも情報をどんどん出させていただくと

ということがあって初めて、例えば町田市の登録率は他市に比べてこの程度だけれども、結果的には利用の実態から見てどうだというような分析があって、ここの部分については今の登録率、現行水準を維持していくことが妥当ではないかということは言われる可能性もある訳です。

ただ、最初の2点については、ここの議論の中で図書館が取り組んでいるのはこういうことだけれども、それでは不足ではないか。こういった年代層のところにやるべきではないかというコメントがあって、そのコメントを今度図書館が受けて、翌年度それをどのように取り組むのかという検討をして、また特記の中に、例えばもう少し上の世代についてどういう取り組みを検討して、どういう取り組みを行ったということなのか、もしくは有効な手だてがなかったということなのか、そういったやりとりが出てくるというのを頭の中でこちらは想定しているのです。そこの何を選択するかは、まさに協議会の中での議論になるのかなど。

ですから、最初から完成品ということは全然想定していませんので、外部評価のコメントについては、まずは目につくところについて指摘をしていくのだということ、それから少し陰に隠れているところについて議論した上で、どうすべきだということを指摘したい。あとは他市比較ですとか、もっとマクロ的に見て町田市の置かれている状況を、こういった数字からあぶり出していった結果としてコメントしていくという幾つかのパターンがあるのではないかと思います。

一番大事なのは、ここのやりとりなのですね。外部評価者が一定のコメントをして、それを図書館が受けて、それをどのように取り組んだのかということをもたまたま翌年書いて、その結果とともに提示していく。市民は、そのやりとりを経年、それこそ1回でわかるということではなくて、毎年やりとりを読み込んでいったときに、自分としては、こうではなくてこうしてもらいたいのだというのがあれば、利用者の声として上がってくるのかなどというようなことも期待しているところです。

これまでのものと読んでも、正直言って図書館によほどかかわりがある人でないとわからない。書かれている内容が専門的というか、知っている者同士が話をしているかのようなことになってしまっているのので、利用者はかかわれないかなというのはこちらとして感じているところですので、そういった意味で一気に完成度の高いものということではなくて、気がついたところについてコメントしていただく。それをこちらとしても検討した上で次の取り組みに入っていく。それを繰り返していくことで、結果的にこの活動が先

ほどお話しした上位の施策にどう響いていったのか、どう寄与していったのかは別の観点から調査をして、結果的に貢献していないということであれば、貢献のあり方を考え直さなければいけないねということになってくるということです。

ですから、評価ということの特段のものとして捉えるのではなくて、日常的な業務のPDCAのサイクルの中にはまった状態で進めていけるようにと考えています。

○山口委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はいかがでしょうか。千田委員、いかがでしょうか。

○千田委員 今の館長のお話を伺って、私もそうだなと思ったのですが、私などは、数値というのは結構怖いものだなという認識があるのです。いかようにもごまかすこともできるし、数値を出していると、どうしても担当者は右肩上がりを狙う。そのために何か工夫をする、目先のごまかしをしてしまう。だけれども、それも結果的には年数がたつていくと淘汰されるのではないか。今、館長のお話があったように、最初から完成度の高いものを求めているなければ、何年かやっていくうちに、右肩上がりばかりを狙うのではなくて、数値は上がるけれども、この内容は変だよというのは淘汰されていくような気がするのですね。

数値を出していくというのは一種の冒険だとは思いますが、ある意味すごくわかりやすいかなという感じがしています。特に特記すべき取組のところに、そういったものが書かれていることで少し数値の上がり下がりが理解できるのではないかという気がするのですね。経年変化を見ていくことによって、数年前はこういう努力をしたけれども、結局これはサービスという点においてはマイナスであったという判断もできるような気がするのですね。

ですから、ある意味、一応ここでは2018年までとはなっていますけれども、数値で取り組んでみるという試みもおもしろいし、それから特記すべき取組のところに、担当者はどなたが書いているのかわからないのですけれども、担当者の思いというか、努力といったものをぜひとも書いていただいて、それをもとに我々が判断したり、あるいは図書館を利用する方が判断していただいて、また意見を寄せていただくというような形はいいのではないかと考えています。

○山口委員長 ありがとうございます。特に今、最後におっしゃった特記すべき取組のところで担当者がどれだけ自分たちの業務について熱く思いを語れるか、そこが恐らく中林委員がさっきおっしゃったような図書館側の活動、人の姿が利用者、市民に見えるところ

かと思うのですね。そういう意味では、数値というのは確かに扱うのはなかなか難しい部分もあるのですけれども、その両方で補完できればバランスよくとれるのかとは思いません。

砂川委員はいかがでしょう。

○砂川委員 今までのように外部評価者が批評したり、監視したりするような感じではなくなるのだったら、とてもいいことかと今思いました。専門的なことは私はよくわかりませんが、一利用者として図書館がどのようなサービスを提供してくださっているのかとか、どのような取り組みをしてくださっているのかとか、職員の方が働きやすくなるような私たちの要望というものが出せるような評価シートになればいいなと思います。

○山口委員長 ありがとうございます。今、一利用者としてという点はやはり大切だと思うのですね。図書館協議会は図書館の利用者の代表という側面もありますし、その一方では、図書館にある程度かかわりを持っている、前の松尾委員長も図書館と市民を結ぶ接点が図書館協議会だとよくおっしゃっていましたが、そのとおりだろうと私も思っております。そういう意味で、余り完成度を目指さずという点で大分救われた思いがありますので、むしろこの形で検討を続けながら、ただ、やはり数値に関してはある程度は我々も勉強しなければいけない部分はあるのかなと。

もう1つは、こういう形の評価ですよというのをうまく利用者向けに説明をしていただくのは図書館側でやっていただきたい。例えば、先ほどあったように、これは図書館の事業評価で毎年やるのだけれども、施策については3年ごとですか。だから、5年計画だから、3年目と2年目という感じになるのでしょうか、どうなのですか。

○尾留川館長 現在ですと、事業計画の年次でいきますので、来年度2015年度が中間年になります。2017年度が最終年になる。

○山口委員長 それに合わせて、今度は施策についての評価という2段構えですよということ。

あと、数値も基準値がというのではなくて、そもそもその数値の意味を説明しないとわからないのが多分あるなと今思っています、例えば一覧表の3ページ目の一番下のVI-2の財務諸表のところで、これは新しくできた項目ですが、特に蔵書回転率、蔵書更新率というのは利用者は全くかかわりを持たない考え方なので、これについては簡単な説明を入れるというものを初めとして、わかりにくいものは凡例のような形で説明を入れていただければいいのかなと。我々の方でも、それについては少し理解を深めるようにしていけ

ば、実際の評価のときには対応できるのかとっております。

あと、今日お話を進めてきた中で、実際にコメントの中に含め切れない問題点などが出てくるかと思うのですね。それは先ほど久保委員がおっしゃったように、外部評価にかかる時間が少しでも浮けば、その分、そういった問題点を図書館協議会の中の協議事項ということで出せるのかなと。毎年、年度の初めに協議事項を幾つか挙げているのですが、このところ、その余裕がなくて挙げておりませんが、逆にそういう中から生まれてくる協議事項もすくい上げて、それは通年で議論を深めていくというような形で利用していけばいいのかと思います。

○鈴木委員 意見ではなくて、去年のものを読ませていただいてすごく気が重かったのですね。図書館がBとか言ったのをCにするとか、すごく嫌だなと。ほとんどはこちらの方が厳しいという感じで、そういう作業をするのは嫌だなと。今日伺ったところだと、そういうものではなく、できそうなのでほっとしました。

○山口委員長 ありがとうございます。そうしますと、一応今日の時点での図書館評価についての協議というのはこの程度にとどめてよろしいでしょうか。

あと何かございましたら。

○中林委員 今日を外してしまったり、また忘れてしまうかもしれないのですけれども、さっき館長から1年生、入学生を対象にという話がありましたね。教育委員会と大きくかかわることなのでしょうけれども、千田先生もいらっしゃいますし、学校図書館に詳しい清水さんもいらっしゃる訳です。子どものときから図書館が身近に感じられるということは本当に将来を左右するほど大事なことだと思うのです。そういう意味では、1年生に入ったときに例えば図書館のカードをみんなつくるとか、小学校のときに図書館に余り関心がなくて通ってしまった子どもは、今度は中学に入ったら、中学1年生になった時点で図書館カードをつくるといったことは可能にならないかなと思ったのです。

中学生などは、その時期はスポーツとかその他に関心が行ってしまいますから、文化的なレベルからだんだん離れたりするのですけれども、きっかけとして町田市の図書館カードを自分は持っているのだということは、図書館に足を向ける1つになるのではないかと思ったのです。それで、そういったことも今度検討してみたらどうなのかなと。私はかかわっていませんが、昨年度、学校の図書館の要望を出しましたね。それともつながって来ると思うのですけれども、図書館に子どもの足を向けさせるというのは、私たち市民としてのすごく大きな仕事でもあるような気がするのです。その点を今度取り上げていただけ

るか、あるいはそういったことは教育委員会でもうやっていらっしゃるのでしょうか。

○尾留川館長 図書館1年生事業については、学校の協力を得て1年生全員にこちらで登録してもらうための資料を送らせてもらって、保護者と一緒に図書館に来ていただいて登録をしてもらっているという状況です。ただ、実際のところは、登録率は10%台です。

これは千田先生の話になると思うのですが、学校としては子どもたちが1人で図書館利用ができるというのを3年生に想定されているようなのですね。ですから、1年生から全員に登録ということになると、それは保護者と一緒ということが前提になってきますので、そのあたりも調整はさせていただきましたが、今の段階では3年生で、それこそ図書館見学をしていただいていますので、先ほどもお話ししたように、図書館見学のあとに利用券、登録されていない人はというので、わっと並んで仮でもいいからどんどん登録していってしまうというような状況もやっている実態はあります。

あと、先ほどあった中学生もしくは高校生は、取り組みとしてはかなり難しい実態があって、小学校を卒業すると、次の更新のときに来てもらえないという状況があって、中学生になると途端に登録率が落ちるということは実態としてありますので、そのあたりは課題ですので、こちらとしても進めていこうということがあります。図書館を利用していただけということもそうですけれども、早いうちから本に親しんでいるということが一番重要なことになりますので、そのあたりの取り組みは、子ども読書活動であったり、そういった中で行っていく。それと、こちらの図書館の登録というものをどのように結びつけていくのかがこれからの課題かと思っています。そういった意味でも、外部評価という意味でも意見をいただければ、こちらも課題は認識していますので、そのあたりでやりとりができるかと思います。

○山口委員長 今、学校のことが出ていますけれども、中学校で千田先生、いかがでしょうか。

○千田委員 一時に比べると、今、中学生は朝読書などへの取り組みも結構やっているのですね。ですから、図書館の利用率はそんなに増えていないかもしれませんが、最近の話題では大学生が本を読まないというのが出ていましたけれども、大学生に比べるとかなり読んでいるのではないかと思いますね。特に中学校は、各学校の図書室を活用しているような気がするのです。

図書室の新刊図書の充実も、最近は随分と力を入れていますし、何分部活をやったり塾に行ったりして忙しいものですから、近場に例えば鶴川図書館みたいに試験のときに勉強

をすとか、宿題をするとき勉強しに行くような場があり、なおかつそこに図書館が併設されていると行くと思うのですけれども、ちょっと遠いところにわざわざ自転車に乗って行こうかというよりも、自分の学校の図書室で借りてしまう方が多いような気がするのです。

だから、かなり先の話になるかもしれませんが、図書室と図書館がパソコンか何かで、データ入力であれば、1つのカードで借りるとカウントされるみたいな形になれば増えてくるとは思うのですけれども、今の子どもたちの実態というのはそんなところではないでしょうか。

○山口委員長 ありがとうございます。学校図書館の支援という点では、この協議会でも議論は続いてはいます、まだ終わってはいませんので、先ほどの中林さんのご発言も受けながら、今後の協議事項の中にそれは継続して入れていきたいとは思っています。

ちなみに、今の件で、昨年、緊急提言で学校図書館に専任の司書の配置を求める要望書を前14期の協議会から教育委員会へ出しておりますが、それについて、その後のことを館長からお願いします。

○尾留川館長 緊急提言の取り扱いですけれども、学校教育部が担当になるのですが、取り扱いの確認をしたところ、まず1つは、緊急提言もしくは申し入れに対する回答は差し上げていないということです。ただ、緊急提言については、学校図書館については今回、教育プランに重点として載せてきておりますし、緊急提言で指摘もしくは要請された事項については真摯に受けとめて、それぞれ1つずつ確認をとった上で対応していきたいと話されています。そのような状況です。

○山口委員長 ありがとうございます。学校図書館に関しては、ほかの自治体でどんどん先進的な取り組みが出てきておりますので、やはりそういう情報を収集して、それをできるだけ町田市内にフィードバックしていくとか、外はこうですよ、こういうものもありますよというところで要望を高めていくことも大切なかと思えます。

実はこの間、図書館友の会全国連絡会の総会へ行きましたら、神戸市では学校図書館の司書の完全配置ということで行われましたし、横浜市は報道であったように、非正規ですけれども、全校にというような取り組みが政令指定都市レベルで動いていますので、これがぜひ東京の方にもしっかりと伝わってきて、何よりお金がセットでつかないとなかなか働く人の立場も守られないし、継続性がありません。町田市も、もっと図書館が欲しい訳ですが、子どもたちにとって一番身近なのは学校図書館ですから、それを充実させるために

は、やはり何よりも人かなと私も思いますので、その問題についてはぜひ協議会の中でも今後とも見ていくようにしたいと思います。

そうしますと、図書館評価については改めてこれまでということで、また来月のときに議論があれば、そこで深めたいと思います。

それから、その他ということで何か特にこの場でご発言をされたいこと等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

1点だけ私から話題提供でお話をします。まず、これは5月31日で月末ですが、今日最後に配られた資料です。水戸市で水戸市立図書館を育てる市民の会という図書館運動体がありまして、そこでシンポジウムをやる。これはどういうことかといいますと、水戸市の中央図書館は直営で残して、地域館を全て指定管理、つまり民営化しようという動きが出ています。水戸市図書館協議会にそれを諮って、協議会が4回議論をした結果、指定管理は仕方がないでしょうという結論が出たという訳です。それに対して、いや、それは違うでしょうという市民の方たちが市民の会を結成されている訳です。

今回、そこにパネリストとして私も入っているのですが、トップに出ている千さんは関東学院大学の先生ですが、彼は公共図書館の出身で水戸市の出身ということでメインスピーカーをしてくださる。私は何を話すのかといいますと、図書館協議会と市民の図書館運動について町田市の事例を紹介してくださいと。要するに、年10回やっているところと年2回とか3回のところで何が違うのかということをお話してほしいということ。あと、図書館友の会全国連絡会という組織が今ございまして、町田市では町田の図書館活動をすすめる会が団体会員になっております。そちらの全国ネットワークの現状なども知らせてほしいということで、外のいろいろな図書館の動きを知らない市民の方が多いので、ぜひそういう人たちにいろいろ知ってほしい。

今後、こちらの水戸市は6月議会で多分通るでしょうという推測なのですが、むしろ指定管理館になったとしても、その後、あるべき図書館の姿をちゃんと市民が見ていく、そういう力を持った市民を育てたいということのようです。やはり市民力が大切だという点だと思いますので、その趣旨に賛同して私もお引き受けした次第でございます。水戸でございますので来てくださいとは言いませんが、来月ご報告させていただきたいと思っております。

もう1点、今年の秋、前回もお話ししましたが、日本図書館協会の全国図書館大会、今年は第100回の記念大会になります。10月30日と11月1日と2日間ですが、11月1日に図

書館友の会全国連絡会が共催で市民と図書館という部会が立ち上がります。テーマももう確定しておりまして、午前中は図書館協議会がテーマになっています。午後が図書館とマスメディアということで決まっております。

午前中の部会では、私が実行委員なので司会兼報告者ということで、あとは全国から図書館協議会のいろいろな積極的な活動をされているところを中心に事例の報告をしていただくという形で、協議会活動をどう活性化していくか、または協議会がない自治体の人たちにとってみれば、どうやってつくったらいいか、そのようなことを意見交換する場を設けたいと思います。

午後はメディアと図書館ですが、知る自由などに絡めて最近いろいろな報道がありますが、そこでメディア関係者もパネリストに呼んで、市民と図書館関係者とメディア関係者の三者で図書館の自由とか、メディアと図書館の関係について議論するという企画でございます。

7月の図書館雑誌に案内が出ますので、また、そのときにはご案内を差し上げたいと思いますが、ご関心のある委員の方にはぜひ積極的にご参加いただければありがたいと思っております。

○鈴木委員 会場はどこですか。

○山口委員長 会場は東京の明治大学の駿河台キャンパスですので、電車ですぐ行けます。

私からは情報提供2点ということで終わります。

それでは、よろしいでしょうか。あと特に何かございませんか。

それでは、そろそろ定刻になりますので、今回の定例会は終わりにしたいと思います。

—了—